




研究者名※	松本 望 MATSUMOTO Nozomi	学位※	博士(社会福祉学)
所属※	人間社会学部 社会福祉学科	職名※	講師
連絡先	matsumoton@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/nozomim		
研究分野※	社会科学(社会福祉学)		
研究キーワード※	高齢者福祉, 認知症ケア, 権利擁護		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「サービス付き高齢者向け住宅の虐待に関する基礎的研究」日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2019年4月 - 2023年3月 ・「高齢者介護施設における効果的な虐待予防策の解明」日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究(B) 2016年4月 - 2019年3月 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・第7期・第8期 当別町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定支援(業務委託) 		
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度日本認知症ケア学会石崎賞 日本認知症ケア学会 ・2013年度日本社会福祉学会 関東地域ブロック部会 研究大会奨励賞 一般社団法人日本社会福祉学会・関東地域ブロック部会 		

研究領域	社会福祉学	(SDGs) 
研究テーマ※	介護現場における専門職による虐待の予防	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 専門職による利用者への虐待に関しては、先行研究が少ないのが現状である。一方では、死亡事例も含め毎年深刻な虐待の実態が明らかになっている。これまで、自身が介護士として働いた経験もいかしながら、認知症高齢者グループホーム、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅における虐待の実態と、その効果的な虐待予防策を明らかにするため、調査・研究に取り組んできた。 これまでの研究結果からは、「職員の意識」が最も強く虐待に影響しており研修等の重要性は認められるものの、「職員の意識」に対しては労働環境や職場の人間関係なども影響を与えることが明らかとなった。また施設種別や虐待の種類によって、虐待予防策の効果が異なることも明らかとなった。</p> <p>【応用例, 研究の展望】 虐待の実態を把握するための妥当性が担保された尺度も十分開発できていないことから、調査・研究を継続して行ううえでも尺度開発が必要である。また、施設種別によって虐待の実態や虐待予防策の効果も異なることが明らかになっていることから、近年特に増加している住宅型サービスにおける虐待の実態や予防策に関する調査を行う必要がある。さらに、韓国や中国など諸外国の介護施設における虐待の実態や予防策の実施状況など国際比較を行うことで、各国における必要な対策や取り組みについて明らかにしていくことも課題である。</p> <p>【研究方法の特色】 介護現場へのヒアリング、アンケートを行い、介護現場のニーズを統計的手法なども用いながら客観的に明らかにするとともに、研修等を通じた研究結果のフィードバックを含め、現場との対話を意識しながら取り組んでいる。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・松本望「養介護施設従事者等による不適切なケアに対する効果的な予防策の検討」『社会福祉学』61(1), 32-43p(2020). ・松本望「虐待リスクが高い利用者要因とその対策: 養介護施設従事者へのインタビュー調査をもとに」『高齢者虐待防止研究』15(1), 53-63p(2019). 	
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・行政関係者, 介護現場の専門職などに対する研修会の開催, 職場改善にむけたグループワークの実施, 職場のリスク・改善点の評価尺度の開発など。 	